

C.C.O.M

広島の生協

平和とより良き生活のために

JAN.2017

VOL.59 新春特別号

広島県生活協同組合連合会

発行 2017年1月10日



50th

Anniversary

広島県生活協同組合連合会は
今年創立 50 周年を迎えます

広島県生活協同組合連合会

創立 50 周年

「先人が残した足跡と未来展望」…………… 1- 2

岡村 信秀：広島県生協連合会会長理事

・2017 広島県生協連創立 50 周年記念企画 …… 3

・トピックス

ヒバクシャ国際署名・けんこうチャレンジ

・編集室から

広島県生活協同組合連合会創立 50 周年

先人が残した足跡と未来展望

新春のお慶びを 申し上げます



広島県生活協同組合連合会 会長理事

岡村 信秀

本年は広島県生活協同組合連合会創立50周年という記念すべき年です。先人たちの「志と協同」がぎゅっしりつまった半世紀は、時代の要請やくらしのニーズに真正面から向き合ってきた歴史といえます。そのプロセスにおいて組合員と役員の一丸となった協同の取り組みは、結果として、強い信頼関係を築いてきました。節目の年である今年、改めて先人が残した足跡をふりかえり、今後の未来展望について考えます。

広島県生協連の設立と連帯活動

県内の最初の生協は今から111年前の1906年、呉海軍工廠の職工によって結成された「呉港消費組合自助会」です。その後、1928年には日立造船因島生協のルーツといわれている「因島消費組合相愛社」が設立されました。相愛社は順調に業績を伸ばしましたが、次第に戦争体制に巻き込まれ、1941年に幕を閉じ、広島のひとつの生協は第二次大戦下の動員と経済統制により終戦を待たずして消滅しました。

1945年8月6日、原子爆弾の投下により、広島は多大な犠牲と甚大な被害をこうむり、壊滅的な状況に陥ります。そのような状況下で、終戦直後の食料不足を背景に、いち早く復活したのが「買い出し組合」と呼ばれた「町内会生協」、賀川豊彦の影響を

最も受けた県北の三良坂消費組合に代表される「消費組合」、そして戦前からの伝統をもつ因島生協や学校生協などの「職域（購買生協）」でした。

1950年代には地域の労働組合を中心とした地域勤労者生協、無医地区住民の切実な願いにより医療生協、労働者福祉の一環として労済生協など新しい生協が次々設立され、戦後の高揚期を迎えます。しかし、購買生協は流通業界の再編の中で競合も激しくなり苦戦を強いられ、60年代に入ってから「県内連帯」を求める声が増しに強くなり、「県連設立」の動きが加速しました。こうした折、1964年、日本生協連総会において「県連強化」が重要な課題として提起され、1967（昭和42）年に広島県連が誕生しました。そして、60年代から70年代にかけて、物価高騰や食の安全が脅かされる中、生協ひろしまや竹原生協などの市民型生協や大学生協が誕生し、90年代にはグリーンコープや三共生協が設立されます。

この間、会員生協では商品づくりや産直交流、さらには平和、環境など多様な活動が展開され大きく前進しました。事業面では経営が悪化し解散に追い込まれた生協もありましたが、多くは組合員視点と連帯を軸に、難局を乗り越えます。とくに購買生協は競争が激化する中、70年代初頭から今日に至るまで、県連を軸に

オバマ米大統領から送られた折り鶴（広島平和記念資料館にて展示）



広島県生活協同組合連合会創立 50 周年——先人が残した足跡と未来展望



2019NPT 再検討会議 NY デモ行進で核兵器廃絶を訴える



HJC 協同組合学習会開催の様子



広島県生協連創立総会の様子

商品の共同仕入れや宅配の事業連携、組織統合、中四国事業連の設立など連携が進みました。さらに連携は福祉の領域まで広がり、購買生協と医療生協との共同事業化が進みだしました。

そして今日、県内の生協は食の安全・安心、医療、介護・福祉、共済葬祭、平和、環境、助け合い、子育て応援、消費者政策、防災などくらしに関わる様々な事業や活動を展開し、生協の輪は組合員 80 万人を超えるまでに広がりました。

平和活動

1951年、日本生協連は先の戦争の教訓から、民主主義的平和と国家の確立と生活の維持安定をめぐり創立されました。創立宣言の中で「平和とよりよい生活こそ生活協同組合の理想であり最大の使命だ」とうたい、「平和宣言」が採択されました。それを受け全国の生協は、この間、「平和とよりよい生活のために」をスローガンに事業や活動に取り組んできました。とりわけ被爆地ヒロシマで活動する生協にとって、戦争も核兵器もない平和な世界の実現は最大の使命であり、これまで被爆者団体をはじめ多様な市民団体との連携を大切にしてきました。

现阶段の核兵器を巡る世界の潮流は、その非人道性から廃絶する方向へと進み、その道筋をつくるため、本年3月から国連を舞台に「核兵器禁止条約」の交渉会議がはじまります。しかし、核保有国とその同盟国の壁は厚く核兵器ゼロへの道は困難が予測されます。そのような状況をふまえ、私たちはこれまでの活動をさらに前進させ、交渉会議への後押しを強めていくことが求められます。私たちは人類と共存できない「絶対悪」の核兵器に未来を託すわけにはいきません。今後は、平和首長会議や多様な市民団体との連携をさらに促進させ、オールジャパンの取り組みを前進させていくことが急がれます。

協同組合間連携

協同組合間の連携が始まったのは1980年代ですが、連携の要となったのは1985年に発足した広島県協同組合連絡協議会（以下HJC）です。HJCはJA、森林組合、漁協、生協など11の団体で構成されており、1999年に「理念と行動指針」が策定され、「地産地消」という言葉がはじめて使われました。その翌

年には「協同組合間提携地産地消運営協議会」が発足し、産地育成や契約栽培など地産地消の実体づくりが動き出します。ほかに、協同組合間の活動交流や幹部育成のための「協同組合学校」の開校など、全国の中でも先進的な取り組みが展開されました。また国連が定めた2012年の「国際協同組合年」には、それまでの連携に一層拍車がかかり今日に至っています。

協同組合の未来展望

このように、広島県連は創立以来、「連携と平和」を軸に時代の要請やくらしのニーズに対応し、そのDNAを継承してきました。そして今日、国内情勢は、グローバル経済を背景に、地域経済の疲弊、貧困と格差の拡大、人間関係の希薄化、コミュニティの空洞化など過去に経験したことがない社会問題に直面しています。行き過ぎた市場原理主義や競争が持続可能な社会経済システムを弱体化させ、「新たな生きにくさ」を生みだしました。時代はもう一つの道として、誰もが安心してくらせる持続可能な地域コミュニティの再生を要請しています。その実現は、地域資源の管理と生命のつながりを前提に、「地域循環型社会経済システムの形成」により可能です。

そのような将来像を展望するとき、協同組合に課せられるテーマは「FEC (Foods Energy Care) 自給圏」づくりです。具体的には、平和を土台に生命の維持やくらしの根幹である「食の安全安心」、環境保全・再生可能エネルギーの拡充、助け合い・介護・医療の安心の地域自給です。同時に「労働」「子育て」「高齢者」「生命のつながり」「人間性回復」の5つのテーマをつなぎ、「くらし・地域、まるごと対応」が重要なポイントとなります。そして、それらの未来を切り拓くためには、ワークスをはじめ多様な協同組織や行政との連携を一層促進させ、新たな協同のネットワークを形成することが不可欠です。

最後に、昨年11月30日、ユネスコが「協同組合」を無形文化遺産に登録を決定しました。これは、協同組合が公益組織としての使命を超え公益組織としての役割も果たしつつあることを意味します。私たちは改めて協同組合の普遍性と可能性に確信を持ち、県連と会員生協が一丸となり未来展望に向け邁進することを決意します。

広島県生協連創立 50 周年の意義と計画

50 周年のテーマ「生協って何？」

～歴史に学び、現況を認識し、未来をつくる～

- (1) 2017 年は、広島県生協連が創立して、半世紀（50 周年）の周年の年と位置づけ、各種の行事を企画します。
- (2) 広島県の生協は、戦前からの長い歴史があります。変遷をたどりながら、積み重ねてきた歴史を再認識します。
- (3) 2016 年広島県内 88 万人が加入する組織へと成長している。地域と共に飛躍する新しい未来像へ向けて行動します。

(1) 広島県生協連創立 50 周年記念式典（案）

■日 時 10 月 19 日（木）18 時～

■場 所 メルパルク広島

参加者規模 120 ～ 150 名

(2) 「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い（案）

～ 2017 市民平和フォーラム～（仮称）

■日 時 10 月 19 日（木）13 時～16 時 30 分

■場 所 広島県民文化センターホール

参加者規模 400 ～ 500 名 一般市民参加可能

テーマ：「平和文化の継承 ～次世代へのアプローチ～」

(3) 広島県生協連 50 周年記念誌と DVD 作成（案）

【トピックス】

1. 「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」（通称：ヒバクシャ国際署名）を支援し取組みます。

広島県生協連は、2012 年 12 月から平和首長会議が主宰する「核兵器禁止条約の早期締結を求める署名」活動に取り組んでいます。2015 年の NPT 再検討会議では全国の生協で集めた約 89 万筆の署名を国連へ提出し、「核兵器のない平和な世界」の実現に向けて世論をリードし取組んできました。

そうした中、2016 年 4 月に国内外の被爆者が中心となり「被爆者国際署名」の推進連絡会を立ち上げ活動が始まりました。

広島県生協連は、被爆者が訴える署名に賛同し、今後も平和首長会議が取組む署名は継続しながら、ヒバクシャ国際署名についても、支援し取組みます。是非、皆様方のご協力をお願いいたします。

2. 「けんこうチャレンジ 2016」目標 5,000 人達成！

けんこうチャレンジは、元気な広島県民を目指し、楽しみながら気軽に健康づくりの習慣を身に付けられるよう、子どもから大人まで幅広い健康づくりの輪を広げる事を目的に 2015 年から取組んでいます。（2015 年実績：3,802 件）2016 年度は 5,000 件を目標に、広島県生協連と 3 つの医療生協（広島中央保健・広島医療・福山医療）、会員生協も加わり実行委員会を設置し進めてきました。また、JA 広

島中央会、広島県にもオブザーバーで参加いただき、広島県、広島県教育委員会をはじめ、全市町と全市町教育委員会にも後援をいただきました。江田島市立三高小学校では、教育委員会の通知を見た先生が、是非、生徒に取り組んでほしいと提案されて、生徒 65 人全員と教員 4 人が、夏休み期間にけんこうチャレンジに挑戦しました。臼井校長先生からは「夏休みはどうしても生活習慣が乱れやすいため、学校としても健康的な生活について考えられるように働きかけたかった。このけんこうチャレンジはいい企画だと思いました。」と、先生と生徒の間で楽しく取組んでいた様子なども伺うことができました。2017 年もけんこうチャレンジを企画いたします！更に健康の輪が広がる取組みにしたいと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。



終了記念品を臼井校長先生（右）へ贈呈



広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp

【編集室から】
年が改まり、広報誌59号は、4ページ立ての「新春特別号」となった。年の瀬の慌ただしさの中で、たとえ4ページといっても、年明け早々に機関誌を発行することは気ぜわしいし、スケジュールを読む計画性も必要となってくる。▼よく「仕事は段取り」と言われるが、広報誌づくりも同様で、原稿・写真・印刷の手配（段取り）が出来れば、後は黙っていてもスムーズにいく。だが、段取りが出来ていても、人間というのは「思い違い」、「手違い」、「判断ミス」というのがあって、土壇場でギャパンと言わせられることが往々にしてある。▼何故そうなるのかと考えてみるが、これにはアマとプロの認識の差が大きいのだと思える。編集ものの場合、文章原稿にそれがよく見られる。もちろん専門でない人が書く原稿は完全ではない。だから校閲・校正の役割は重要である。▼最も困るのは、「あとで直せばいい」と考えている人がいることだ。これが編集者にとっていちばんの悩みの種である。年明けの最初の号の制作過程で折ることは、「どうかトラブルがないように！」ということだけである。（Y）